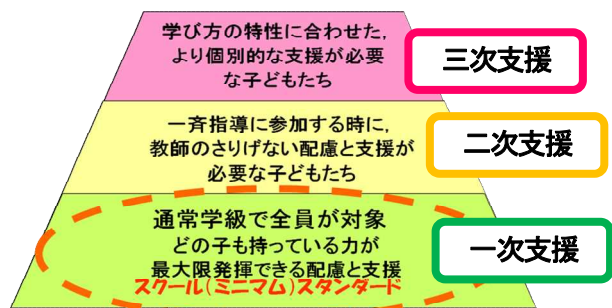


特別支援教育推進通信

葛南教育事務所 特別支援教育班

前号の **特別支援教育推進通信** では

「**文字を書く**」ことの **一次支援** についてお伝えしました。



すべての **子どもたち**

「**できた**」「**わかった**」のために!

『一次支援』だけでは、まだ、困っている子どもたちが教室にいます。

次は「二次支援」の土台部分をしっかりと提供し、さらに必要な子どもには、特性や個に応じた「三次支援」を提供していきましょう。

二次支援

一斉指導する時に、誰もが持っている、少し苦手な部分を補ったり、認知の特性を活用したりすることで、工夫できる支援です。

前号で、「新聞づくり」や、道徳の時間の感想を書くということを取り上げました。発見カードや観察カード、感想箋、自己紹介カード等も同様です。文字を書くことが苦手な子どもは、渡されたプリントが吹き出しや四角い枠だけしかないと、書けなくて困っていたり、乱れた読めない字になったりすることがあります。

支援① 「書ける」プリントを 数パターン 用意しよう

以前、東大生が使うノートで、罫線にドットが付いているものが紹介され、人気商品になったことがあります。(今では定番化されました。)ドットを目印にして、文字を書いたり、スペースを空けたり、図を書いたりすることが容易に、きれいに書けるということが理由です。また、ノート名人は、ノートの書き方をパターン化する(日付けを書く、いつも使う言葉を記号化する、問題とまとめ等色ペンの使い方を統一している)ということも話題になりました。

楽に、丁寧に書ける **プリント**や**ノート**を準備してあげること
で、書くことの **有効な 方策**を **伝えて**いきましょう。

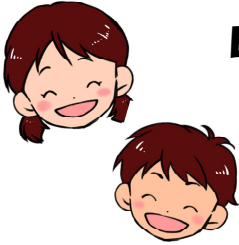
① 字を書くことが 苦手

- ① 横書きするのか? 縦書きにするのか? 文字の大きさは? ということに迷います。
- ② 書き始めても、文字の形のバランスが取れなかったり、曲がったり、書ききれなくなったりします。

要因は? 背景は?

- ① 見て物の形をとらえる力、物と物との距離をとらえる力が弱いことがある。
- ② 枠の大きさと、自分の字の大きさや文字量の関係等をとらえる力が弱いことがある。
- ③ 書くこと以外にも体の動きがぎこちなかったり、手先を細かく使うことが苦手だったりする。
- ④ 衝動性が強く、自分の動きのコントロールが苦手なことがある。





白紙より罫線 罫線よりマス目 マス目より十字リーダー

罫線があれば、縦書きか横書きかが分かります。マス目になっていけば、何文字位の量を書けばよいか、書く量がわかります。マス目に十字リーダーがあると、文字のバランスに気を付けて書くことが自然とできます。罫線の幅やマス目の大きさを
変えるだけで、ストレスなく書くことができるようになる子どもたちもいます。

ホームページ上に誰でも使えるプリントのサンプル (Excel)

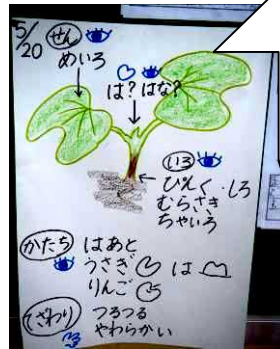
を用意しました。活用して下さい。



特に 1, 2 年生の子どもたちには、書く速さや、量を求めるのではなく、字を丁寧に書くこと、**読める(きれいな)字**を書くこと、**書く(観察や構成)視点**をしっかりと伝えていきましょう。

要因②への支援例

見て、触って、感じて等、観察のポイントをはっきりさせています。プリントにも同じマークをつけてあると書きやすいです。



② 話はできるが、文を書くことが苦手

- ① 何を書いたらいいかわからず、止まっていたり、手いたずらをしていたりします。
- ② 思ったまま次々書くので、まとまりがなく、何を書いているか分からなくなります。

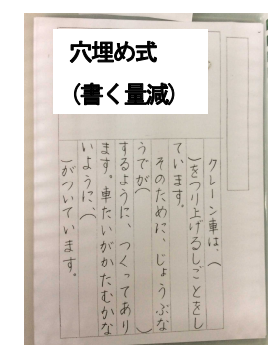
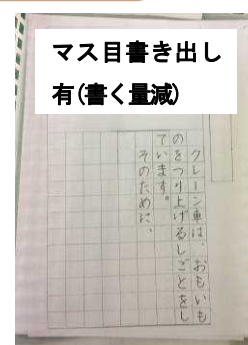
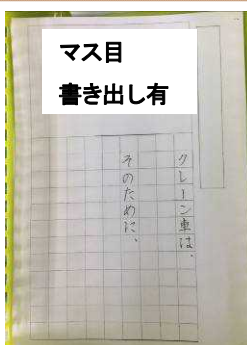
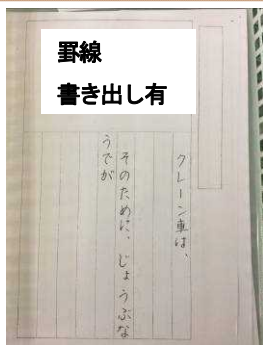
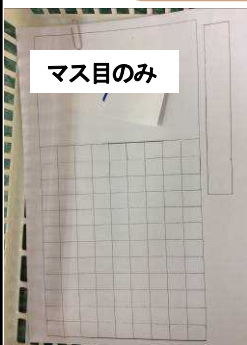
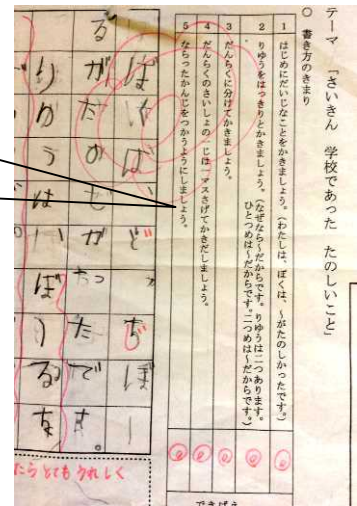
要因①③への支援例

書き方のきまりをいつも確認しながら書けるので安心です。

要因は？ 背景は？

- ① 出来事を想起することが難しい。
- ② いろいろなことが混ざり、**焦点が絞れない**。
- ③ 文章の構成が苦手。

子どもが、自分で書きやすい・書ける (きれいに・丁寧に・楽に・早く) **ものを選ぶように!**



ある学校の取組です。国語の時間のプリントを数種類用意しています。子どもたちは、自分が一番書きやすいプリントを選ぶことができます。

子どもによっては、楽をしたくて簡単なプリントを選ぶかも知れません。力以上のプリントを選んでしまうかも知れません。そんな時は、まず、「やってごらん」と認めたくえで、次の機会に、「こっちのプリントでもできると思うよ」「こっちの方がもっと上手に書けると思うよ」と子どもの自尊心を高める様な言葉をかけて、違うプリントを進めてみてはどうでしょうか。

学年の小さい時からいろいろなプリントをもらい慣れていると、学年が上がってからも、少し支援の入った違うプリントをもらうことにも抵抗がありません。

それぞれの、**学びに合わせて** 勉強が進められます。

こんな子 いませんか？

漢字が
書けない子

漢字を書くのを嫌がる子
漢字を覚えられない子
何回書いても、すぐに忘れる子
漢字練習を真面目にしている子
漢字テストができない子



このような子どもは、繰り返し何回書いても、なかなかひらがなや漢字を正しく覚えることができません。また、ノート1ページ分(繰り返し書く)練習する漢字練習の宿題は、見ただけで嫌になってしまいます。

「文字を書く」ことが苦手という子どもの中には、ひらがなや漢字が正しく覚えることができずに書くことを嫌がっているということも多くあります。読めていても、書くと鏡文字になったり、交差の仕方が違っていたりします。心で思ったことがあっても、書きたい文字を思い出すことができずに、白紙のプリントになっています。黒板を見てノートに書くことができている、聞いた言葉を文字という形にして書くことができない子どももいます。

支援② 得意な部分をフル活用して！

私たちは、何かを覚える時に、いろいろな自分の感覚を使って記憶しています。思い出す時にもいろいろな手段を使って再起しています。ひらがなや漢字を覚えることや書くことも同じです。方法はいろいろあります。是非、子どもの得意な部分を活用した覚え方を見つけてあげましょう。

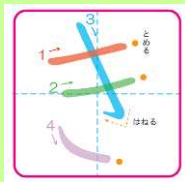


Point

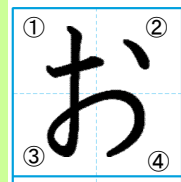
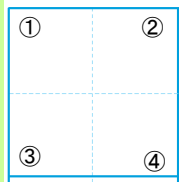
覚え方の「コツ」を教えてあげること

「視覚化」「音声化」「動作化」「パズル化」

○1年生 文字を覚える時は、
書き順 と「部屋」と「動きを言葉で」



「へん」とつくりを意識することにもつながっていく
漢字学習につなげる



「よこ たて
おむすびたまご
2てん」

○新しい文字が出てきたら、
空書き …視覚化 運動動作化

指書き …触覚法 (手のひらに書く)

なぞり書き …強い視覚・強い運動動作



空書きする時 一画ずつ止めていますか？

空書きを導入している学校が増えてきました。でも、どんなやり方で進めていますか。

『いち、に、さ～ん、よん』と流すように続けて書いていませんか？

衝動性の強い子ども程、鉛筆を「止める」ことができずに文字がぐちゃぐちゃになってしまいます。

文字は止める、はねる、はらう等の動きが重要です。

Point

書き「始め」と「終わり」をしっかり意識できるように、一画ずつ、ゆっくり書くようにしましょう。特に「止め」をしっかり！



三次支援

教室の授業の一斉指導の中で工夫をしてみたけど、まだ、苦手なことがありそう。困っていそう。そんな時は、**個々の特徴や学びの特性**に応じて、**さらに個別の対応を工夫**してみましょう。

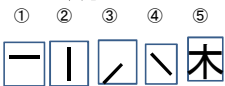


僕も わかる。
できたら うれしいよ!!

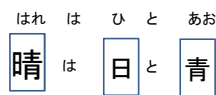
支援③ 自分の得意な覚え方を みつけよう。

○ 新しい漢字を覚える時

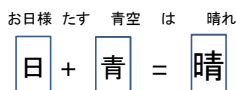
○ 重ねると漢字ができるやり方



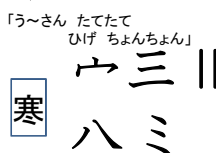
○ 部分を組み合わせせた作り方



○ 部分を組み合わせせた作り方



○ 漢字の書き方を言葉にする



覚え方もいろいろあります。

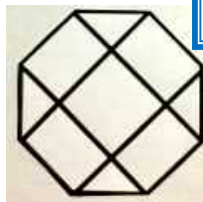
「この子は“同時処理型”“継次処理型”」と、子どもたちを単純に、ふたつに分けられるわけではありません。それぞれの子が学ぶ内容によってもどちらかに偏っていると考えられます。また理解にいたるアプローチも個人で微妙に異なります。それぞれの子が、認知の方法が違っているということです。

しかし、学校での教え方が一方に偏っていると、わかりにくい、わからない子どもがいるということです。

人それぞれに認知の違いがあります。教師にとって良い方法は、必ずしも子どもにとって良い効果を表すかは、わからないということを理解して、**それぞれの子にピッタリ合う、その子が納得する教え方を工夫していくことが大切**です。もちろん、一斉指導の中だけでは対応できないこともあります。通級指導教室等での個別の指導が必要なこともあります。

能力の凸凹 = できない
ということとは 違います。

この図形を描いてみましょう



どんな書き方をしましたか？

①先に八角形を描いて対角線を引く方法。

あっ一緒だ〜！という方と、えっ

何？と違う描き方をしたと思った人がいると思います。えっ？と思われた方は、

②先に長方形を2つ描いて頂点を線で結んで書く方法。

そうそう、と思われた方がいると思います。

大まかな言い方ですが、先に八角形を書いた人は全体を見てから部分をとらえる**同時処理の捉え方が優位**。反対に、長方形から描いた方は部分から見て全体をふまえる**継次処理の捉え方が優位**。なのではないでしょうか。

認知様式の違いに基づく指導方法

	継次処理型指導(聴覚言語)	同時処理型指導(視覚映像)	
段階的	小さな指導ステップを経て指導のねらいに到達	全体的	本質的部分を含む全体を最初に提示
部分? 全体へ	部分的に刺激を提示し、徐々に全体へ	全体? 部分へ	ひとかたまりの複数の刺激を提示、全体? 部分へ
順序性重視	番号など用いて、課題解決順序を重視	関連性重視	提示された複数の刺激間の関連性に注目
聴覚・言語的	言葉による手がかりを用いて課題解決を図る	視覚・運動的	映像や体の動きによる手がかりを用いて課題解決
時間的・分析的	時間的手がかり、分析的手法による課題解決	空間的・統合的	映像的で統合的な手がかりを用いた問題解決



○全体から部分? ○視覚が得意?
○部分から全体? ○聴覚が得意?

どんな学習する時も、
自分の得意な処理の仕方に
合わせると学習しやすくなります。